

令和5年度 第2回下山地域会議 会議録

■日 時 令和5年5月18日（木） 午後7時00分～8時45分

■場 所 下山交流館 2階 多目的ルーム

■出席者 <委員> 出席 11名、欠席 4名

■内 容

1 あいさつ

2 議題

(1) 諮問答申について（市森林課）

ア 委員によるプレゼンテーション

副会長：地域会議において「森林所有者、非所有者も森林管理に対して共通のイメージを持つこと」を目的として、自身が所有する森林へ事務局と現地調査に行き、資料を作成したので発表を行う。

発表は3か所の持山について「所有の状態」「管理の状態」「今後の意向」の観点から説明。

事務局：諮問を理解し答申を考える上でのポイントについて言及したい。

1つ目は林種について。スギやヒノキを中心とした人工林と、広葉樹を中心とした天然林があり、今後どうしていくかを分けて考える必要がある。また、個人の山でも国や県が指定し一定の規制がかかる保安林と比較的自由に扱える普通林がある。

2つ目は豊田市の中での下山の森林について。下山の特徴として、勾配のなだらかな準平原の地形で、森林が道路に面しており、森林管理や木材生産には条件が良い。そのため、以前は林業が盛んであり、現在でも市内で最も木材生産量の多い地域である。

イ 質疑応答

委員：先祖代々引き継いできた山であるが、幸せを感じるか。

副会長：下山では地域生活と森林が密着している事もあり、定年すると良いなと感じる。

事務局：昔は身近な天然林は、薪や炭の原料や山菜、椎茸の^{ほだぎ}榎木など集落の生活と密接に関わっていた。しかし、時代は変わり、副会長の山の様に管理されている状態の森は少数派である。天然林を今後どのように管理していくのか、しないのかを所有者は判断する必要がある。しないならどのように受け継いでいくのかが論点の一つ。

また、植林した当時は財産形成目的で植えることが多かったが、現在は植林当時から約1/3～1/5の価格に下落し、補助金がなければ伐採しても赤字になる様な状況。そのような状況下で、今あるスギ、ヒノキをどう管理していくかも論点の一つ。

ウ ワークシート記入

(2) 分科会活動

ア 情報提供

事務局：議論が進む中で、出てきたキーワードに対して、市の施策や現状を知らないと言論が深まりづらいため、分科会ごとに基礎情報を用意した。参考にさせていただきたい。

3分科会共通で「地域カルテ」を配布。その他は分科会ごとの個別資料。

イ 分科会協議

ウ 分科会代表のワークシートの回収

3 報告・情報提供等

4 次回日程

○第3回下山地域会議 6月15日(木)午後7時から 下山交流館多目的ルーム